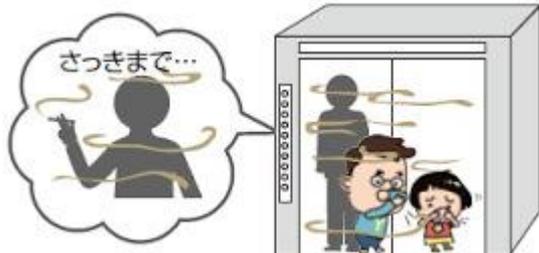


# 週刊 タバコの正体

他人のタバコの煙を吸わされるのが「受動喫煙」ですが、白いタバコの煙が目には留まる時間は短く、すぐ消えてしまいます。しかし、目に見えないニオイは時間がたっても、なかなか消えません。例えば、喫煙所の付近では、けっこう離れていてもニオイを感じるものです。そして、人とすれ違った時や、エレベーターに乗った時にタバコのニオイを感じる事はありませんか。その人がタバコを手にしていないのに、吐く息や衣服などからタバコのニオイがする事ってありますよね。さらには、喫煙が常習的に行われている部屋では、誰もいなくてもタバコの強烈なニオイがします。



「人気の空気清浄機はコレ」サイトから



横浜市港南区HP「広報こうなん」から



オートバックス健康保険組合HPから



Healthil HPから

それは、敷地内から喫煙所をなくすことです。つまり、私たちの学校と同じ、一日じゅう敷地内でタバコを吸えない「敷地内全面禁煙」の企業が登場しているのです。

では、他人のタバコの煙を吸わされるのが「受動喫煙」ですが、ニオイを嗅がされるのも「受動喫煙」と言えるのでしょうか。ニオイだけでは有害ではないと思うかも知れませんが、どうでしょう。

じつは、ニオイの成分のほとんどはタバコの有害物質なので「受動喫煙」と同じように健康を害する恐れは十分にあるのです。その証拠にタバコ臭い部屋に長時間いると、気分が悪くなったり頭痛がしたりするケースもありますからね。このようなタバコのニオイを嗅がされる事を、英語で”Third-hand smoke” (サードハンドスモーク)と言います。日本語では「残留受動喫煙」または「三次喫煙」と呼ばれています。ちなみに、「受動喫煙」は英語で”Second-hand smoke”と言います。

昨今、「受動喫煙」を防止するために“禁煙”が当たり前になっている職場や施設がほとんどですが、喫煙者のための喫煙所が敷地内のどこかに設けられているケースが多いのです。すると、喫煙所の近辺は常にタバコ臭く、そのうえ喫煙してきた人の衣服などから漂うニオイで「サードハンドスモーク」を受けてしまいます。

そこで、最近では従業員の健康を重視する企業は、受動喫煙に加えて「サードハンドスモーク」をも防ぐ対策を取り始めています。どんな対策だか、わかりますか。

産業デザイン科 奥田 恭久